未来を描く！創る！

イノベーティブな
生徒たち

第6回

検証と改善のサイクルで世界を変える！校内ごみ分別プロジェクト

北川杏菜さん・高校3年生（左）／**泉怜杏**さん・高校3年生（右）

京都府・私立花園中学高校

校内ごみ分別プロジェクトを、泉怜杏さん、北川杏菜さんがスタートしたのは、探究学習のテーマを考える中で、河川から海に流れ込んだプラスチックが海の生態系に大きな影響を与えていることを知ったことがきっかけだ。何の気なしに道端に捨てられたプラスチックごみが、海の様々な生き物の命を奪っていること、地球温暖化同様、待ったなしの問題であるにもかかわらず人々の関心がそれほど高くないことに、2人はショックを受けた。世界規模の環境問題を自分たちだけで解決することはできなくても、できることをしよう。そう考えた泉さんと北川さんは、校内のごみ問題に取り組むことを決意した。2人がまず実施したのは、校内のごみ問題の実態を最もよく知る学校用務員へのインタビューだった。

「学校用務員の方に、『また来たの？』と驚かれるほど、何度もお話を伺いに行きました。その中で、私たちの学校では、特に部活動で出るごみが分別されていないこと、そして生徒だけではなく、先生方が職員室などで出すごみも時には正しく

読者の先生方がご存知の「イノベーティブな生徒たち」をご推薦ください！
ご推薦いただける場合は、右の2次元コードをスマートフォン等で読み取っていただき、フォームに沿ってご推薦内容をご入力ください。

分別されていないこともあるといった事実が分かりました」（泉さん）

そこで2人は、生徒や教師に向けて校内のごみ問題の現状を伝え、分別を間違えやすいごみの正しい分別方法を説明するポスターを、教師や学校用務員からの助言を生かしながら作成し、校内のごみ箱の近くに掲示した。だが、2人の活動はそれでは終わらなかった。

「ポスターが効果を発揮するのか、もしも効果が十分でなければ、どこが問題なのかを知りたいと思いました。そこで、ポスター掲示の前と後で分別率に変化があるのかを調査することにしました」（北川さん）

2人は、教師にごみ問題への意識や行動に関するインタビューを行い、さらにオンライン上のアンケートフォームを使って、ごみの分別の理解度を測るテストを実施した。そうした調査データと教師や生徒の生の声を踏まえ、2人はごみの分別のマニュアルブックを製作し、校内で公開することにした。今後も引き続き分別状況を調査し、ポスターやマニュアルの改善につなげ、さらには自分たちの活動をSNSを通じて他校に紹介し、広めていく予定だ。

環境問題に対して、当事者としての危機感を持てない生徒もまだまだいると、2人は感じている。また、自分たちの活動を引き継ぎ、広げてくれる仲間を校内外に募ることも急務だ。そうした課題を見据えた上で、泉さんは世界規模の問題に前向きに向き合おうとしている。

「私自身、以前は環境問題には全く関心がありませんでした。でも、今は環境問題だけでなく、いろいろな問題を自分事として考えられるようになりました。そうした問題について、知らない人、関心がない人がいるのは当然のことで、そのことに対して不満を抱いていても、仕方がありません。現状を悲観するのではなく、私たちが気づいた者として、その気づきを伝えていけばよいと思っています」

北川さんも、活動を通した自身の変化を自覚している。

「以前は、自分から行動したり、人前で発表したりするのが得意ではありませんでしたが、この活動を通して自分が変わりました。環境問題は、1人の力で解決できるものではありませんが、1人が動かなければ何も変わらない問題でもあります。私が行動を続ければ、友人や先生、家族が変わるかもしれません。少しでも社会をよりよくするために、自分たちの活動が他者の心に響くものになるように、これからもPDCAを回し続けていきたいと思います」

大きな課題を前にして、自分の無力さに悲観して立ち尽くすのではなく、微力ながらも自分にできることを行い、その成果を検証し、アプローチを改善する。2人の社会変革のサイクルは、これからも回り続ける。

イノベーションの芽を育てる 教師たち

京都府・私立
花園中学高校
一貫教育係主任・
中学主任
伏木陽介（ふせぎ）

伴走していたはずの生徒が自走を始める感動

泉さん、北川さんには、探究学習の過程で、校内にとどまらず、校外の多様な人たちと出会うことを勧めました。環境問題という大きなテーマの下、具体的にどのような活動をするのか、自分たちで考え、実行していけたのは、2人が探究学習に関する様々なコンテストに出場し、他校の生徒やメンター役の教師と交流して、アドバイスをもらえたからだと思います。ただ、コロナ禍の中では、思ったような活動ができず、悩む様子を見せることもありました。2人に限らず、探究学習で壁に直面した生徒に対して、教師ができることは、生徒のそばで一緒に考えることや、校外の人たちの考えや思いを解釈して生徒に伝えることです。そうして伴走しているうちに、アイデアが豊富で未来を信じる力を持つ生徒は、いつのまにか自走を始めます。それが、探究学習で生徒が教師に味わわせてくれる感動です。

学校プロフィール

設立　1872（明治5）年
形態　全日制／普通科／共学
生徒数　1学年約410人
2021年度入試合格実績（現浪計）
国公立大は、北海道大、名古屋大、滋賀医科大、京都大、大阪大などに35人が合格。私立大は、慶應義塾大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ453人が合格。

※プロフィールは、2022年3月時点のものです。